

DA
3035
2002
(119)

中学生の友人関係における目標志向性が
抑うつ傾向に与える影響

2002 年度 筑波大学心理学研究科博士論文

学籍番号 985049

黒田 祐二

寄贈
黒田祐二氏

03006587

— 目次 —

第1部 序論

第1章	子どもの抑うつ傾向を検討する意義	…	2
第2章	抑うつ傾向の原因は何か？—抑うつ傾向の素因についてのアプローチ—	…	5
第1節	抑うつ傾向の素因についての従来のアプローチ—認知的アプローチと行動的アプローチ—	…	5
第1項	認知的アプローチ	…	5
第2項	行動的アプローチ	…	14
第2節	抑うつ傾向の素因についての新しいアプローチ—動機づけ的（目標志向性）アプローチの有効性—	…	15
第3章	抑うつ傾向はどのようなメカニズムで生じるか？—抑うつ傾向の発生メカニズムについてのモデル—	…	18
第1節	素因ストレスモデル（diathesis-stress model）	…	18
第2節	ストレス生成モデル（stress-generation model）	…	20
第4章	抑うつ傾向はどのような文脈で生じやすいか？—対人的文脈の重要性—	…	24
第5章	友人関係における目標志向性が抑うつ傾向に与える影響についての理論的検討	…	27
第1節	Dweck & Leggett（1988）の理論の概観	…	28
第2節	Erdley, Cain, Loomis, Dumas-Hines, & Dweck（1997）の研究	…	30
第6章	問題の所在と本研究の目的	…	33
第1節	評価目標を接近と回避の次元（評価—接近目標と評価—回避目標）に区別する必要性—評価—接近目標と評価—回避目標は抑うつ傾向に異なる影響を与える—	…	33
第1項	学業領域における目標志向性研究の概観	…	34
第2項	承認欲求に関する先行研究の概観	…	36
第3項	友人関係における評価目標を評価—接近目標と評価—回避目標に分ける必要性—両者は抑うつ傾向に異	…	37

	なつて影響する一	
第2節	友人関係における目標志向性と抑うつ傾向との関係に介在するメカニズム	38
第1項	素因ストレスモデル	40
第2項	ストレス生成モデル	43
第3項	ストレス生成モデルの拡張—「ユーストレス生成モデル(eustress-generation model)」の提唱—	44
	(1) 精神的健康及びストレスに関する先行研究の概観	45
	(2) 社会的スキル研究の概観	46
	(3) ユーストレス生成モデルの提唱	47
第4項	ストレス(ディストレス/ユーストレス)生成モデルにおける新しいプロセス—認知・感情過程の提唱—	48
第3節	本研究の目的と仮説	50

第2部 実証的検討

第7章	友人関係における目標志向性と抑うつ傾向との関係	57
第1節	友人関係における目標志向性尺度の作成 [研究1]	58
	目的	58
	方法	59
	結果と考察	62
第2節	友人関係における目標志向性と抑うつ傾向との関係 [研究2]	67
第1項	学年・男女込みにした検討 [研究2—1]	70
	目的	70
	方法	70
	結果と考察	71
第2項	学年・男女別の検討 [研究2—2]	72
	目的	72
	方法	72
	結果と考察	75
第3節	友人関係における目標志向性と自尊心との交互作用が抑	77

うつ傾向に及ぼす影響 [研究 3]	
目的	… 77
方法	… 77
結果と考察	… 78
第 4 節 友人関係における目標志向性と他の抑うつ傾向の素因	… 81
(原因帰属スタイル) との抑うつ傾向の予測力の比較	
[研究 4]	
目的	… 81
方法	… 81
結果と考察	… 82
第 5 節 第 7 章のまとめ	… 90
第 8 章 友人関係における目標志向性と抑うつ傾向との関係に介在す	… 92
るメカニズム—素因ストレスモデルの検討—	
第 1 節 素因ストレスモデルの検討 [研究 5]	… 93
目的	… 93
方法	… 93
結果と考察	… 94
第 2 節 友人関係における目標志向性とストレス時における認知	… 101
・行動過程との関係 [研究 6・7]	
第 1 項 目標志向性とストレスに対する対処方略との関係	… 102
[研究 6]	
目的	… 102
方法	… 103
結果と考察	… 104
第 2 項 目標志向性とストレスに対する認知との関係 [研	… 110
究 7]	
目的	… 110
方法	… 111
結果と考察	… 111
第 3 節 第 8 章のまとめ	… 116
第 9 章 友人関係における目標志向性と抑うつ傾向との関係に介在す	… 120
るメカニズム—ディストレス/ユーストレス生成モデルの検	

討一	
第1節	ディストレス／ユーストレス生成モデルの検討1—行動 … 121
	過程の検討— [研究8・9]
第1項	自己評定を用いた横断的検討 [研究8—1] … 121
	目的 … 121
	方法 … 122
	結果と考察 … 123
第2項	教師評定を用いた横断的検討 [研究8—2] … 130
	目的 … 130
	方法 … 130
	結果と考察 … 131
第3項	縦断的検討 [研究9] … 134
	目的 … 134
	方法 … 134
	結果と考察 … 136
第2節	ディストレス／ユーストレス生成モデルの検討2—認知 … 140
	・感情過程の検討— [研究10・11]
第1項	横断的検討 [研究10] … 140
	目的 … 140
	方法 … 141
	結果と考察 … 143
第2項	縦断的検討 [研究11] … 149
	目的 … 149
	方法 … 149
	結果と考察 … 150
第3節	第9章のまとめ … 154

第3部 総括

第10章	本研究の結果の要約 … 159
第1節	友人関係における目標志向性と抑うつ傾向との関係 … 159
第2節	友人関係における目標志向性と抑うつ傾向との関係に介 … 160

在するメカニズム	
第1項 経験・成長目標と抑うつ傾向との負の関係に介在するメカニズム	161
第2項 評価-接近目標と抑うつ傾向との負の関係に介在するメカニズム	161
第3項 評価-回避目標と抑うつ傾向との正の関係に介在するメカニズム	162
第3節 評価-接近目標と評価-回避目標及び経験・成長目標との相違点, 類似点	162
第1項 評価-接近目標と評価-回避目標の相違点	163
第2項 評価-接近目標と経験・成長目標の類似点, 相違点	164
第11章 本研究の意義	168
第1節 目標志向性に関する研究への貢献	169
第2節 抑うつ傾向の素因に関する研究への貢献	169
第1項 抑うつ傾向への動機づけ的アプローチと認知的アプローチ及び行動的アプローチとの関係	170
第2項 認知的要因と行動的要因の共通の原因としての動機づけ的要因 (目標志向性)	172
第3節 抑うつ傾向の発生メカニズムに関する研究への貢献	173
第1項 ユーストレス生成モデルの意義	173
第2項 ストレス (ディストレス/ユーストレス) 生成モデルにおける認知・感情過程の意義	175
第4節 精神的健康に関する研究への貢献	176
第12章 教育的介入への示唆	178
第1節 治療的観点からの介入	179
第2節 予防的観点からの介入	181
第3節 精神的健康を積極的に促進・維持するために	183
第13章 本研究の限界と今後の課題	186
論文要約	189
引用文献	197
研究発表一覧	209

謝辭	… 210
調查協力校一覽	… 212
資料	… 213